

津波襲来 逃げ場は？

備えはあるか

東日本大震災の教訓 ①

東日本大震災で、東北地方では巨大な津波が早いところでは約20分に到達し、「いざという時はとにかく高いところへ逃げろ」という教訓が繰り返されるようになった。ところが、釧路市内や白糠町の海岸沿いには、近くに高層建築物がなく、避難施設が低層の地区もある。（小坂洋右）

指定施設は2階建て

海岸沿い
対象拡大求める声も

■広がる低平地
「今回の東北地方での教訓は、沿岸部で巨大津波をやり過ぐすためには、4階建ての屋上ぎりぎりだったと、東北全域の被災地を調査した早大の柴山知也教授（海洋工学）、「釧路市のような低

いつと、屋上でひさまで水につかあった救助を待った例もあった」と、東北全域の被災地を調査した巨大の柴山知也教授（海岸工学。（銅路市のような低

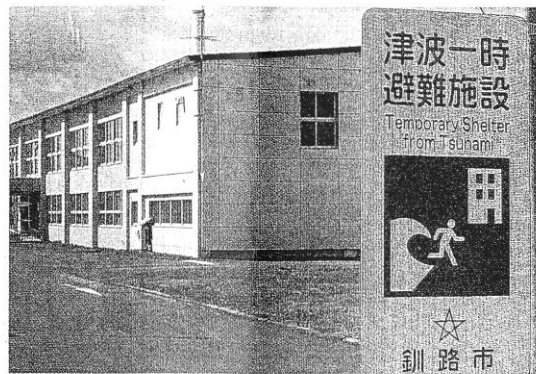
平地の場合、水は奥へ奥へとどんどん押し寄せ、せき止まるから、とにかく高いビルに逃げる必要がある」と、考え方は明快だ。

しかし、500年間

マップで広範囲が水没地域に色分けされている市内大栗毛地区の住民は「地域には頑強な高層建築物はない」。約4500人が暮らす約4500人が暮らす

は、東日本大震災のマグニチュード(M)9.0を下回るM8.6、津波高4〜13メートルの想定で作られている。

た。たされるようになった。



釧路市大葉毛地区の海岸
近くの住民にとって一番
近い津波一時避難施設の
ボリテクセンター。建物
は2階建てで屋上には上
がれない造りだ



す国道38号より海側の
一帯で津波緊急一時避
難施設に指定されてい
るのは釧路職業能力開
発促進センター（ボリ
テクセンター）だが、
海岸から約500mほ
どの近さで標高差はほ
んどない。建物は鉄
筋コンクリート2階建
で、屋上には上がれ
ない構造だ。

会組織「大塚毛防災推進協議会」の亀井川正一会長(76)も、東北の津波の映像を目にして危機意識を強くした。「この地区は阿寒川と新釧路川に挟まれていて、新釧路川の側がより低い。だから、そっちは逃げられないし、反対方向に行った

れる。

近所の男性74は大
として（阿寒川にか
震災が起きた3月11日
の午後、JR根室線の
線路を横切り、根室38
号を越えた内陸の大栗
毛小に避難。夜の8時
ごろいったん自宅に戻
ったあと、テレビで釧
路の旧釧路西高も取りざ

大津波の際に、逃げ場の選択が乏しいのは白糠町の中心市街や庶路・西庶路地区も同じだ。両地区とも市街地が低地にありながら高層の建物はなく、しか

る」と話す。

今回の震災を受けて避難所や避難に対する考え方を見直すことになるのか。釧路市の佐々木信裕・防災危機管理主幹は「まだ今回の検証が終わっていない段階。見直すかどうかも含めて今後の課題」としている。